

令和5年4月1日

校長 中屋 珠美

令和5年度 今年度の重点・取組事項

3年に及ぶ新型コロナウイルス感染防止対策による教育活動の制限が解除され、いよいよコロナ禍前の教育活動の Re-Start となる。昨年度は『Change(変化)していく学校』を掲げ、教育活動を見直してきた。今年度は以下の教育活動について変更・新設を行う。(表1)また、令和5年度はキャリア教育を見直し、共通テーマ『ふれあい』のもと、体験的な学習を軸に生徒に『身につける力』をつけ、生きる力の育成を促していきたい。

令和4年度からの主な Change(変化)、と新たな取組

全学年	CS の実施	令和5年より(地域貢献部・防災支援部、三中応援部)
1年	スキー教室(2泊3日)	令和5年度より実施
2年	農業体験(2泊3日)	令和4年度で廃止
2年	職場体験	廃止➢『総合的な学習の時間』の進路学習として3年間で系統的に進める
全学年	海洋教育(理数教育)	笹川財団科学研究助成
全学年	学力向上(AI型アプリによる朝学習)	東大和市学力向上推進校(3中グループでの取組)
全学年	学力向上	1学期に学習定着度テストの実施(業者)
全学年	学力格差解消校	平成29年より。取り出し授業、放課後補習教室 各種検定の推奨
全学年	不登校加配校	令和5年度から。東大和市の不登校解消推進校
全学年	学年朝礼	新設
全学年	ALT の廃止	一人1台 PC を活用したオンライン会話の実施

1 コミュニティスクール『けやき通り(仮称)』として

◇ 地域に根差し、愛される学校を目指し、『チーム三中』として、生徒・学校・地域がWIN WIN の関係を目指す。

- 地域貢献部(ボランティア活動)・防災支援部(総合防災訓練の実施)、三中応援部(放課後学習教室、各種検定の運営、他)
- コーディネータ CS: 上田みどりさん 学校: 久保田裕介教諭
- 地域人材の活用、地域を素材とした学習の展開を図る(主な連携先は後日提示)

2 確かな学力の育成

◇ 主体的に学習に取り組む態度の育成

- 『わかった』『できた』『やりとげた』が実感できる授業の工夫と実践～個別最適な学習の推進
- 一人1台 PC の活用の推進
 - ・昨年度の成果を活かし、さらに活用を推進する。(研修会でスキルアップを図る)
 - ・目標 PC を活用した授業を 40%以上に
全教員が身につけたいスキル
 - ① 授業での活用(レポートなどの提出を含む) ② オンライン授業の提供
 - ③ オンライン授業での双方のやり取り ④ 家庭での活用 ※④については長期休業の活用
- 話し合い活動や振り返り重視した学習活動、自己肯定感を高める教育活動の実践
 - ・各教科で問題解決的な学習を積極的に取り入れ、自己解決できる生徒の育成
 - ・生徒の良さに着目し、ほめることを中心にした指導
- ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境の整備と授業
 - ・教室環境の UD 化
 - ・授業では、本日のねらい、授業の流れを授業開始時に提示
 - ・読み書きアセスメント(1年生)の実施と結果の活用
- 生徒・保護者から信頼される評価評定
 - ・シラバスの活用
 - ・教科部会で評価評定について検討、共有

◇ 基礎的・基本的な知識・技能の定着

- 生活指導部方針に基づいた授業規律の徹底(学習の場・環境・安全安心の確保)
- 1学期に全学年で復習テスト(業者テスト)を実施し、学力の定着状況を自他ともに確認し、今後の学習計画を立て、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る
- 放課後補習教室(CS 三中応援部)⇒ 学力格差解消校の取組、定期考査前質問教室・長期休業中の補習教室(各学年)の実施
- AI 型アプリを活用した朝学習、授業での活用の実施。⇒3, 5, 6 小と連携し活用と効果について研究する(*5 教科のうち、算数・数学が候補教科)

◇ 言語活動の充実

- 話し合い活動のある授業実践(課題をつかむ一人で考えるーグループで考えるー個人の考えを深める)
- 『書く(入力)、話す、発表する』表現力の向上を図る授業実践
- 朝読書(期間限定)を活用した読書週間を身につける指導

3 『豊かな心』の育成

- ◇ よりよい人間関係を築く環境の整備
 - TPO に応じた挨拶、言葉使い、所作の指導
 - 人権を尊重した教育活動
 - ・生徒は呼び捨てにしない。『さん』をつけて呼ぶ。あだ名や『ちゃん』は NG (人権教育プログラム P26 参照)
 - 学校教育全体を通して、道徳教育を実践し、よりよく生きる基盤となる道徳性の育成
 - ・考える道徳、議論する道徳の実践
 - ・年間 35 時間、全項目の実施
- ◇ いじめ、不登校の未然防止・早期発見・早期対応
 - 『いじめ防止対策推進法』に対応した組織的取組
 - ・学期 1 回の『いじめに関するアンケート』(市教委)、ふれあい月間、1 年生の SC との全員面談の実施
 - ・日常的に『いじめは絶対許さない』というメッセージを生徒に発信する教育活動の実
 - ・『死ね』『きもい』『うざい』『消えろ』等の言葉は必ずその場で指導する
 - ・生徒の微細な変化を見逃さない教員体制の構築
 - ・連絡・報告・相談を徹底し、週 1 回の校内委員会で情報共有を図り、学年・養護教諭・SC/SSW その他外部機関と適切に連携し、早期対応・早期解決を図る
 - Q-U テスト(学級満足度テスト)の結果を分析し、結果を活かした生徒対応と学級経営を行う 課題解決のための具体的な方法を知り指導に活かす
- ◇ キャリア教育の充実
 - 望ましい職業観や勤労観」を育成し、生徒の将来に対する夢や目標を持たせる
 - 体験的な学習を通して、5 つの『身につける力』をつけさせ、『生きる力』を育成する

4 『健やかな体』の育成

- ◇ 日常的に体を動かす活動の推進
 - 体力向上と耐性の日常化
 - ・体育の授業や体育的行事・部活動・昼休みの軽運動等の充実による生涯スポーツの推進
 - ・体育の授業での運動量の確保
- ◇ 心身ともに健康な生徒の育成
 - 学校保健委員会の充実(教職員、保護者対象。年 2 回)
 - 保健指導の充実、健康診断後の受診率を上げる。(目標数値 60%)
 - 食育指導の充実、残菜の削減(目標数値 前年比 10%)
 - 安全指導、防災教育の充実

5 組織的な生活指導の充実

◇ 基本的な生活習慣の育成

- 『東大和市小中連携 7 つのやくそく』や三中生活指導部基本方針『育てる生活指導』の徹底。
- 学習規律の徹底(生徒:授業時間+2分の徹底 教師:チャイムで授業開始・終了)
・授業開始時は全所体制で廊下や教室等の巡回を行う)
- 組織的、複数体制で行う指導 連絡・報告・相談の徹底と全教員での情報共有
・体罰、暴言、セクハラ等の防止
- 全所体制での給食指導(準備、片付け)
- 指導の記録(情報の共有)

◇ 全教員による部活動指導

- 『東大和市教育委員会 学校部活動の在り方に関する方針』に則り、生徒が、知・徳・体のバランスの取れた心身の成長と学校生活が送ることができるようにする
- 生徒の自主的、自発的な参加によって行われ、学校教育の一環として教育課程との関連を図る
- 部活動の地域移行 2年目に当たり、教育委員会と情報共有し、今後の活動については必要に応じて連携する
- 週2日(平日1日、休日1日)以上の休養日を設ける 水曜日は再登校での活動とする
長期休業中も学期に応じた扱いとする
- 活動予定表は前月25日までに副校長へ提出する
- 部活動費用の徴収・管理
 - ・部費、ユニフォーム代などの徴収は必ず管理職に起案し決済を得る
 - ・年度末には部活動ごとに会計簿を提出する
- 休日の校外での活動における引率届提出の徹底(保護者の周知も含む)
- 活動中の安全対策を徹底し、熱中症防止のためのこまめな水分補給や休憩をとる
WBGT 値を測定し、基準を超えた場合は活動を中止する 光化学スモッグについても警報が出た時点で中止とする
- 保護者、生徒との連絡は、私物のスマホ、携帯電話は利用せず、マチコミを使用する 校外での活動で必要な場合は、管理職に申し出て、学校用の携帯電話を使用する

6 特別支援教育と不登校支援の推進

◇ 特別支援教育の推進

- インクルーシブ教育の推進
 - ・特性としてできないことは強くない。代替え方法を身につけさせる
 - ・共に学び共に支える教育(医療との連携やステップ教室の利用を含む)
 - ・障がい理解教育の理解と実践

➤ ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境の整備と授業

・教室環境のUD化

・授業では、本日のねらい、授業の流れを授業開始時に提示

・誰でもできる支援の工夫と実践

➤ 読み書きアセスメント(1年生)の実施と結果の活用

◇ 不登校支援の推進

➤ 対象生徒の状況を校内委員会で情報共有し支援について検討し、実施する

➤ SC、SSW、医療機関等との連携は必須 原因が発達障害に起因する人間関係の築きにくさが起因していることも多い。

➤ 担任(生徒にとって話しやすい教員でもOK)との人間関係を構築し、**生徒が希望する支援(自分で決定することで、自分の言動に責任を持つことを経験させる)**を進め教室に入り授業を受けることを最終目的とする。

・不登校改善の目安(※教師は保護者やSC、医療などと情報共有・連携し、本人の登校意欲を校内委員会で共有する。以下は主な回復パターン)

・実際には一筋縄ではいきません。

① 学校に来ることができる(徐々に慣らし)

② 定期的に生徒のペースで登校できる

③ 支援室へ登校する、登校日数が増える

④ 学活や出たい授業や行事への参加におけた授業を自分で選んで参加ができる SC 面談や保健室の1時間利用を活用しながら、教室での滞在時間が増える

⑤ 教室での活動時間が増えるとともに登校日数も増える

⑥ 自分で登校日を決め定期的に登校できる

7 小中一貫教育の推進

◇ 学力向上

➤ AI型アプリを活用した基礎学力の定着、向上を目指す(東大和市学力推進校)

・算数・数学について、基礎学力の定着を検証する

➤ 各分科会に分かれ、三中地区小学校との教員との交流・情報交換・合同研修

➤ 運動会ボランティア 青少対行事への参加・ボランティアなど

➤ 三中学校説明会、体験授業など

8 学校の組織力・教員の資質能力の向上～『チーム三中』として

◇ 校長の学校経営方針に基づき、職層に応じた役割を果たし、個々の専門性や得意分野における能力を最大限に生かし、教育効果を発揮する

➤ 組織を活かした教育活動の推進

- 研究・研修の恒常化、得意分野の伸長、研修の機会の保障
 - ・校内研修の充実
 - ・学期 1 回の指導教諭による授業参観等の研修の推奨、
 - ・東京都教職員センターの研修受講、教育関係団体（都中研や企業等の研修）の推奨
 - ・OJT,OFF JT により若手教員の教育力を高める
 - 保健室、SC、SSW、こども家庭支援センター、児童相談所、医療機関、警察等と連携した生活指導、不登校支援、特別支援教育
 - 生活指導上の問題に対しては報告・連絡・相談を徹底し、複数体制で組織的・戦略的な指導を行う。初動指導では『傾聴』を十分に行い、生徒の思いを必ず受け止めるようにする
 - 専門性や得意分野における能力や技能を持った教員が責任をもって学校経営に参画することで、人材育成、組織の活性化を図り、教科指導や生徒指導へ s 注力できる体制を構築する
- ◇ 『サービス事故0』
- 教育公務員である自覚を常に持ち、教員自身の人権感覚を常に磨く
 - 体罰防止スローガン『深呼吸-複数体制-傾聴』
 - サービスニュースレター、補文公表資料などの配信、サービス研修の実施
- ◇ 『働き方改革』～月 80 時間以上の時間外勤務職員0を推進する
- 昨年度は 1 年間を通しては0。
 - タイムカードによる勤務時間の把握、留守番電話メッセージによる時間外対応の軽減
 - C4th の校務支援機能を活用し、公務の軽減を図る
 - 定期考査や小テストなどの採点は採点ナビや Teams の自動採点機能を利用し、時間短縮を図る
 - 休暇促進を図るために、①水曜日を定時退勤日とする（部活を行う顧問を除く）②長期休業期間は学校独自の閉庁日を設定する ③My 定時退勤日（月 1 回以上）、Anniversary 休暇（年 1 回程度）を設定する。④看護や介護、通院等のための休暇を優先しフォローし合う。等 Life and Work Balance を推進する
 - 水曜日の放課後は職員連絡会等の会議、研修会や OJT 等を行う。また、特に会議などの設定がない場合は教材研究など自身の授業力向上に充てる。（部活動は練習が必要な部活動のみ。再登校 4 時）
- ◇ 会議時間の短縮
- 開始時間の厳守
 - **各組織—管理職へ起案—（各組織で再検討）—運営委員会で起案・検討—（各組織で再検討）—管理職へ起案—職員連絡会で提案・承認** 斜字については提案内容に課題がなければ省略 **各組織—管理職へ起案は必須です必ず事前に提出を**
 - 資料配布は、基本は Teams を活用しデータで共有。ペーパーレス化を図る

資料の番号は、ファイル名の前に以下の番号をつけるか、フォルダ名を以下のようにし、効率化を図る。

01 校長 02 副校長 03 教務部 04 生活指導部 05 進路研修部
06 事務部 07 各学年 08 その他

➤ 発言は端的に、司会は復唱しない。

◇ SSS、学生ボランティアの積極的な導入

➤ SSS の業務は、教材の準備、採点、印刷、PC への入力、保健業務の手伝いなど、教員への支援である。依頼したことで、生み出された時間は生徒との関わりや教材研究等に活用し校務の軽減を図る。

➤ 学生ボランティアは、『未来の同僚を育てる』という観点から導入し、『不定期で来る教育実習生』のイメージで、教育活動の様々な場面で活用し教育現場の実際を体験させる。授業支援や学習教室等での学習支援を中心に言い、SSS のような教員への支援も依頼できる。この活動によって『職業としての教師の魅力』を知ってもらうとともに、生徒の学力向上、学生の指導力の向上を図る。

◇ 管理職への方向・連絡・相談の徹底

➤ 生徒・保護者への発出文書の起案の徹底（教科指導で使用する資料は除く）

➤ 定期考査問題の起案 決済後印刷

・年間指導計画に照らした計画的な指導の下、生徒の意欲や学力向上につながるテスト問題、情報開示請求に耐えうるテスト問題の作成を行うこと。

◇ データに基づいた指導分析、指導改善を図る 学校教育アンケートについては HP に公開

➤ 授業アンケート（7 月 12 月 2 月）— 生徒が授業を受けている全教員について回答

➤ 学校経営計画に対する取り組みの評価アンケート、学校教育アンケート（11 月、2 月）— 全教職員、保護者、生徒が回答

➤ Q-U

➤ 復習テスト、全国学力テストなど